

慶應義塾大学医学部 形成外科学

I. 基本方針

日本専門医機構の研修目標に沿い、将来形成外科専門医を取得し、形成外科を標榜するため、慶應義塾大学形成外科専門研修プログラムの臨床研修目標の達成を目的としている。4年間を通じて形成外科の知識、技能の習得及び病棟運営の方法を学び、さらに後半では学位取得を目標とした研究活動を行う。

II. プログラム指導者と参加協力施設

①プログラム指導者

慶應義塾大学医学部形成外科学教室

教室主任 貴志 和生 教授 (日本形成外科学会専門医)

専修医担当主任 荒牧 典子 講師 (日本形成外科学会専門医)

②基幹施設：慶應義塾大学病院（形成外科）

③参加協力施設

栃木県：国際医療福祉大学病院、佐野厚生総合病院、栃木県済生会宇都宮病院、
栃木県立がんセンター、那須赤十字病院

群馬県：太田記念病院

埼玉県：国立病院機構埼玉病院、埼玉医科大学総合医療センター、埼玉メディカルセンター、
さいたま市立病院

東京都：医療法人財団 順和会 山王病院、大城クリニック、国立成育医療研究センター、
国立病院機構東京医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院、
東京都済生会中央病院、東京都立小児総合医療センター、
国際医療福祉大学三田病院、

神奈川県：川崎市立川崎病院、平塚市民病院、横浜市立市民病院、大和市立病院

千葉県：帝京大学ちば総合医療センター、東京歯科大学市川総合病院、
東邦大学医療センター佐倉病院

静岡県：静岡県立がんセンター

沖縄県：琉球大学医学部附属病院

III. 教育課程

以下に基本スケジュールを示すが、この4年間に、日本専門医機構の研修目標で必須となっている3か月以上の地域医療研修を含めて研修する。

1年目：基幹施設（半年）・参加協力施設（半年）で、形成外科としての基本的な初期研修を行う。

2年目：参加協力施設で、形成外科の基本手術に必要な解剖と手術の研修を行う。

3年目：参加協力施設で、形成外科の主要手術に必要な解剖と手術の研修を行う。

4年目：基幹施設（半年）では、チーフレジデントとして高度な手術の研修を行うほか、下級専攻

医の教育を担当し、参加協力施設（半年）では、執刀医として手術経験を重ねながら、外来・病棟を責任をもって担当する。また研究班に所属して、学位取得のための研究を行う。

IV. 教育内容

（専門研修1年目）

知識・行動：医療面接・記録：病歴聴取を正しく行い、診断名の想定・鑑別診断を述べることができる。そして診断を確定させるための検査を行う

治療：局所麻酔方法、外用療法、病変部の固定法、理学療法の処方を行うことができる。基本的な外傷治療、創傷治療を習得する。

発表：症例報告を中心に行う。

（専門研修2年目）

知識・行動：血管解剖の勉強と実習を通じて、形成外科に必要な皮弁挙上時に必要な血管解剖の知識と技術を身につける。

治療：1) 先天異常、2) 腫瘍、3) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、4) 難治性潰瘍、5) 顔面骨折について基本的な手術手技を習得する。形成外科の手術を中心とした基本的技能を身につけていく。研修期間中に 1) 外傷、2) 先天異常、3) 腫瘍、4) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、5) 難治性潰瘍、6) 炎症・変性疾患、7) その他 について基本的な手術手技を習得する。

発表：邦文・英文論文作成を行うための基本的知識を習得する。

（専門研修3年目）

知識・行動：他科医師と協力の上、治療する能力を習得する。

治療：マイクロサージャリーやクラニオフェイシャルサージャリーなどより高度な技術を要する手術手技を習得するための研修を行なう。

発表：主要学会での学会発表を行うとともに、邦文・英文を含めた論文の執筆を行う。

（専門研修4年目以降）

知識・行動：初診医の指導のもとに外来を担当する。また、病棟主治医として指導医とともに責任を持って入院患者を受け持ち、指導医の指導のもとに病棟運営にかかわる。また、研修最上級学年医として、下級学年専攻医・研修医の指導にあたる。

治療：複雑な手術の術者として執刀する。

発表：国内学会・国際学会での発表と英文論文の執筆を行う。

2) 4年間での手術経験数および執刀数

基幹施設と連携施設を合わせた研修施設群全体について、専攻医1名あたり4年間で最低300例（内執刀数80例）の経験（執刀）症例数を必要とします。

3) 専門研修ローテーション

慶應義塾大学および15の連携施設で、すべての形成外科専門医カリキュラムを達成することを

目標にします。但し、それぞれの施設には取り扱う疾患の分野にばらつきがあるため、不足分を補うように病院間での異動を行っていきます。

V. 教育に関連する行事（大学病院）

1) 標準的な週間スケジュール

		8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
月	回診	外 来			外 来手術									
		手 術												
火	回診	外 来			レーザー外来、ケロイド外来			術前カンファレンス		抄読会				
		手 術			手 術									
水	回診	外 来			顔面神経麻痺再建外来（月1回） フットケア外来									
		手 術			手 術									
木	教授 回診	外 来			血管腫外来 歯列咬合外来（月2回） 口蓋裂機能外来（月1回） メディカルスキンケア外来（隔週）			術後カンファレンス		抄読会				
					外来手術									
金	回診	外 来			レーザー外来									
		手 術			頭蓋顎顔面変形外来									
土	回診	外 来												
		手 術												

2) 定期的に行われる教育関連行事等

- ・ネットカンファレンス：月1回、ネット会議による施設間合同カンファレンス
- ・同門会学術集会：年2回、関連施設医師が一堂に会し、研究症例検討会を行う。
- ・口唇口蓋裂チームアプローチ検討会：年2回、最新知見と診療科を超えた集学的治療の共有。
- ・解剖カンファレンス：不定期

VI. 定員・身分

人数・待遇面の詳細は、慶應義塾大学医学部ホームページ最新情報をご覧ください。

URL: <http://www.med.keio.ac.jp/sotsugo/kouki/kouki-index.html>

VII. 研究活動

下記のテーマで班別に研究活動を行っている。

①再生医学

- i) 皮膚付属器を含めた完全な皮膚再生
- ii) 毛包再生

- iii) 微小循環を有する組織の構築
- ②創傷治癒、ケロイド・肥厚性瘢痕のメカニズムの研究
- ③血管解剖に基づいた皮弁血行の解明

VIII. 学会、研究会など

教室員の所属、参加する学会、研究会を列挙する。日本形成外科学会及び関東形成外科学会東京地方会は必須であるが、その他は各自の関心のある分野の学会に所属し、研究発表を行う。

【国内学会】

日本形成外科学会、関東形成外科学会東京地方会、日本マイクロサージャリー学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本創傷治癒学会、日本創傷外科学会、形成外科手術手技研究会、日本美容外科学会、日本レーザー医学会、日本臨床毛髪学会、日本再生医療学会、日本口蓋裂学会、日本シミュレーション外科学会、日本褥瘡学会、瘢痕・ケロイド治療研究会、クラニオシノストーシス研究会、日本皮膚悪性腫瘍学会、日本癌治療学会、日本頭蓋底外科学会、日本頭頸部癌学会、日本顔面神経研究会、日本先天異常学会、日本熱傷学会、日本外科系連合学会

【国際学会】

ASPS(米国形成外科学会)、WHS(米国創傷治癒学会)、ETRS(ヨーロッパ創傷治癒学会)、WUWHS(国際創傷治癒学会)、国際クラニオフェイシャルサージャリー学会、ヨーロッパ形成外科学会、ACPA(米国口蓋裂学会)、国際口蓋裂学会、国際美容外科学会、国際熱傷学会、ISCAS(国際コンピューター支援外科学会)

IX. 評価方法

①評価方法

専門研修の1年目から4年目までのそれぞれに、基本的診療能力と形成外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、半年毎にチェックを受け、各年度の終わりには達成度を評価します。この評価には、専攻医が所定の用紙を用いて経験症例数報告書及び自己評価報告書を作成し、指導医が評価・講評を加え、指導責任者により専門研修プログラム委員会に提出することで報告される。

②プログラム修了の認定

4年間の総合的な修了判定は研修プログラム統括責任者が行います。この修了判定を得ることができてから専門医試験の申請を行うことができます。

③プログラム修了後のコース

原則として引き続き慶應義塾大学形成外科学教室助教として、大学または関連施設で研修を続ける一方、指導医として後輩の育成や各研究班で学位取得のための研究に努める。

X. その他

慶應義塾大学医学部形成外科学教室専修医研修プログラムに関する最新情報は、下記の形成外科学教室ホームページをご覧ください。

URL : <http://prs.med.keio.ac.jp/>